

令和3年度 全国学力・学習状況調査 津市調査結果 【中学校】

1 調査の概要

(1) 調査の目的

津市教育委員会及び学校が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

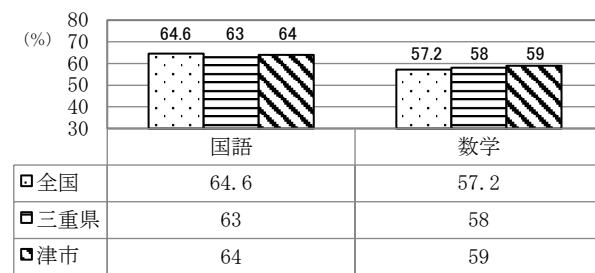
市内のすべての小学校が、各児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。

(2) 実施日 令和3年5月27日(木)

(3) 調査実施人数(津市) 小学校第6学年児童 約2,035人 中学校第3学年の生徒 約1,726人

(4) 調査内容 国語、算数・数学、質問紙調査(児童生徒及び学校)

2 津市の結果 (1) 平均正答率



2 (2) 平均正答率推移(津市・全国)

中学校		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和3年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	75.6	75.6	77.7	77.4	75.7	76.1	71.7	72.8	64.6	64.6
	B	65.1	66.5	71.7	72.2	59.9	61.2				
数学	A	61.9	62.2	66.6	64.6	66.6	66.1	60.6	59.8	59	57.2
	B	44.1	44.1	48.4	48.1	46.6	46.9				
理科						65.6	66.1				
英語								55.5	56.0		

3 生徒質問紙からみる生徒の現状

(数字)は質問番号

(1) 国語

質問番号	質問事項	肯定解答	全国	全国差
44	国語の勉強は大切だと思いますか	92.4	91.6	0.8
46	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.1	88.7	▲1.6
47	国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	80.7	81.8	▲1.1
50	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか	75.8	77.0	▲1.2

(44)の結果から、92.4%の生徒が国語の学習は大切だと捉えていることが分かります。しかし、(46)の結果から、学習で得た知識が生活や将来に役立つと捉えている生徒が全国と比較すると少ない傾向にあることが課題として見えてきます。

さらに、(47)の結果から言葉の知識を理解したり使ったりする意識が全国を下回っていることから、国語の学習が生活や将来社会の中で、役立つと実感させるような授業改善が大切です。また、(50)では、全国より1.2ポイント下回り、自分の考えを広げたり深めたりしようとすることに課題が見られます。

(2) 数学

質問番号	質問事項	肯定解答	全国	全国差
52	数学の勉強は好きですか	57.3	59.1	▲1.8
54	数学の授業の内容はよく分かりますか	76.0	74.6	1.4
55	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	73.9	74.6	▲0.7
56	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	46.1	50.6	▲4.5
59	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	70.2	86.6	▲16.4

(52)(54)の回答結果と数学の平均正答率の相関関係を見てみると、数学の勉強に対して「好き」「大切」「将来、役に立つ」と肯定的に回答している生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

しかし、(55)(56)(59)の結果は全国より下回っており、数学の授業で学習したことを普段の生活や社会に出た時に役立つということを実感させていくことが課題です。また、(59)の結果が全国よりも16.4ポイント下回っていることから、自分の考えを整理し、文章や言葉で書く活動を取り入れ、自分の考えを整理していくことが大切であると考えられます。

4 各教科における調査結果 (2) 国語

○正答率が全国より高い問題について (1三)

話し合いの参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く問題
正答 33.9%

正答ではあるが、この話し合いでの発言ルールについて触れずに解答しているもの 25.2%

誤答 考えた理由を具体的に示すことができていないもの 22.6%

全国正答率より1.9ポイント上回り、全国正答率を下回っていた平成31年度と比較すると改善が見られます。さらに力をのばすには、話し合いのルールに応じて話題を意識しながら、その経過を捉えて話したり聞いたりするように指導したり、発言の内容を整理しながら考えをまとめるように指導することが大切です。

○正答率が全国より低い問題について① (3一) 夏目漱石『吾輩は猫である』より

「この呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する問題

正答 「コツをつかんだ」の意味で捉えたもの 38.9%

誤答 「発言を我慢した」の意味で捉えたもの 41.4%

全国正答率より4.8ポイント下回っています。語句の直前の指示語である「この」が何を指すのかを確かめながら、文脈に即して言葉の意味を的確に捉えることに課題があります。また、「のみこむ」という言葉を「抑えて外へ出さないようにする」「我慢する」という意味で捉え、「呼吸」の意味を的確に捉えることができていません。

語句の意味について調べる際、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を捉えたり、その語句を使った短文を作ったりして、話や文章の中で使うことができるように指導することが大切です。

○正答率が全国より低い問題について② (3四) 夏目漱石『吾輩は猫である』より

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか、そのような接し方をどう思うかを書く問題【条件①文章の一部から、評価している表現を引用する ②引用した表現から、どのような接し方をしていると分かるのかを書く ③接し方について、自分の考えを具体的に書く】

正答 16.9%

誤答 条件①(引用)ができていないもの 48.0%

全国正答率より3.6ポイント下回っています。文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題があります。具体的な叙述に基づいて自分の考えを持つように指導し、互いの考えを交流することで、作品に対する受け止め方もより豊かになります。

4 各教科における調査結果 (3) 数学

○正答率が80%以上の問題について

①表やグラフの読み取り 7(1)【1年 関数】(図1)

②中央値を求める 5【1年 資料の活用】

③ヒストグラムの読み取り 8(1)【1年 資料の活用】(図2)

すべての領域において、全国平均を上回る正答率でした。

その中でも、与えられた表やグラフ、データから必要な情報を読み取ったり代表値を求めたりするなど、資料を活用するための基本的な力は定着していると考えられます。

○正答率が低い問題について

①データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する 8(3)【1年 資料の活用】(図3)

②事象を数学的に理解し、問題解決の方法を数学的に説明する 7(2)【1年 関数】

③ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する 9(3)【2年 図形】

全国平均を大きく下回る問題はありませんでした。問題解決の方法や判断の理由を、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低い傾向が見られました。特に①については、正答率が11.2%と極めて低く、無解答率は28.1%でした。また、①②③のいずれの問題においても、無解答率が20%を超えており、全国平均よりは良い状況ではあるものの、前回調査に引き続き、課題が残る結果となりました。

根拠をもとに結論を述べるができるようになるためには、普段からの地道な指導が不可欠であり、日常生活や社会における問題を取り上げ、その問題の解決のために収集したデータの傾向を的確に捉えて判断する活動を充実することが大切です。その際、結論を述べるためにふさわしい根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について、数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れることが考えられます。

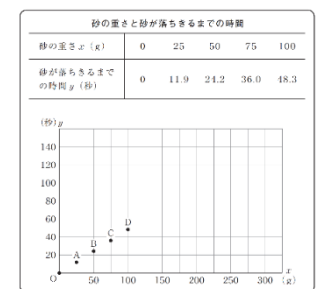


図1

気温差のヒストグラム

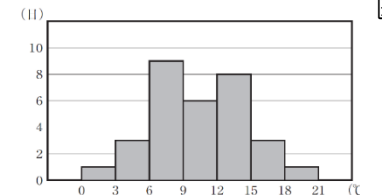


図2

気温差の度数分布多角形

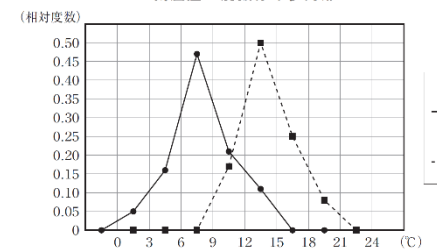


図3

4 各教科における調査結果 (1) 平均正答率

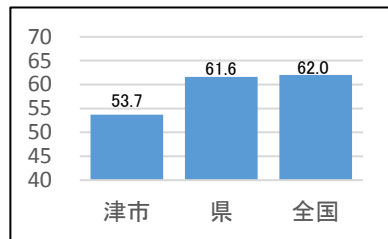
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			県教育委員会	三重県(公立)	全国(公立)	全国との差
学習指導要領の領域等	全体	14	64	63	64.6	▲0.6
	話すこと・聞くこと	3	79.9	78.1	79.8	0.1
	書くこと	3	56.9	55.4	57.1	▲0.2
	読むこと	4	46.7	46.0	48.5	▲1.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	74.4	74.5	75.1	▲0.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	55.5	54.0	56.0	▲0.5
	話す・聞く能力	3	79.9	78.1	79.8	0.1
	書く能力	3	56.9	55.4	57.1	▲0.2
	読む能力	4	46.7	46.0	48.5	▲1.8
	言語についての知識・理解・技能	4	74.4	74.5	75.1	▲0.7
問題形式	選択式	6	63.1	61.9	63.9	▲0.8
	短答式	4	73.5	73.8	74.4	▲0.9
	記述式	4	55.5	54.0	56.0	▲0.5

5 生徒質問紙調査結果について

(数字)は質問番号

(1) 主体的・対話的な学習

(32)工夫して発表していたか

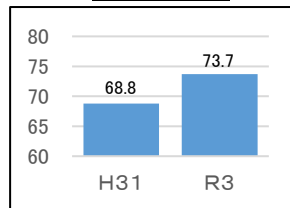


(32) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

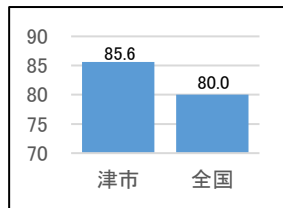
「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した生徒が、前回(平成31年度)は48.5%に対し、令和3年度は53.7%で、5.2ポイント増加しています。各校が主体的対話的で深い学びを意識した授業づくりに取り組んできた成果と考えられます。しかし、全国62.0%と比較すると8.3ポイント下回っており、今後も課題として捉えなければなりません。

(2) 家庭学習とテレビゲーム時間について

(18)家庭学習時間
(1時間以上)



(5)テレビゲーム時間
(1時間以上)



質問番号	質問事項	津市	全国	全国差
17	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	64.0	63.5	0.5
18	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(※1)	73.7	75.9	▲ 2.2
5	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか(※2)	85.6	80.0	5.6

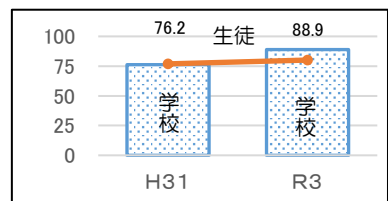
※1学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む
※2コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む

(17)において、前回と比較すると、10.4ポイント上回っており、コロナ禍において、家庭で学習をする習慣がついたのではないかと推察することができます。一方、(18)の結果から、1時間以上家庭で学習をしていると回答した生徒は、前回よりも4.9ポイント上回る73.7%という結果となりました。(5)のテレビゲーム時間の結果も併せると、1時間以上テレビゲームをしている生徒は、全国よりも5.6ポイント上回る結果となっていることから、全国と比較をすると家庭学習の時間が少なく、テレビゲームの時間が多いという家庭での過ごし方に大きな課題が見られます。今後、ドリル等を用いた反復の学習に加え、生徒が自分の考えを文章で解答するような学習課題を設定していく必要があります。

6 学校質問紙調査結果について

(数字)は質問番号

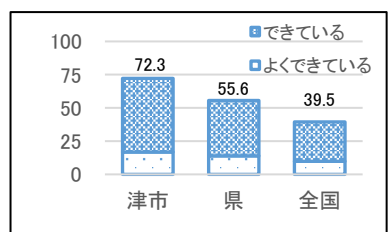
(1) 主体的・対話的な学習



(29)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができると思いますか

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合は、全国よりも2.9ポイント上回る88.9%と8割を超えており、前回よりも12.7ポイント上回っています。また、生徒の回答でも肯定的な回答をした割合が増加しており、生徒が自ら主体的に取り組めるような課題を設定したり、授業展開の工夫をしたり、個々に応じた支援をきめ細かく進めた成果であると思われる。

(2) ICT活用について



(64)コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか

「よくできている」「できている」と回答した学校の割合は、全国を大きく上回っています。津市 GIGA スクール構想の実現に向けて、令和2年度中に全ての学校においてタブレット端末活用研修が行われ、教職員全員が操作方法を習得し授業での活用方法についての研修を深めることができていたことに加え、令和3年度当初には、端末活用研修をオンラインで実施したり、「臨時休業を想定した学習モデル」を作成し、それをもとに各校で取組が進められたりした成果であると思われる。

7 今後の改善方策について

家庭学習の充実を

全国学力・学習状況調査の結果から、国語、数学をはじめ、教科横断的に様々な教科で授業改善に取り組んでいくことが大切です。

また、家庭での過ごし方や学習に向かう姿勢、取組時間の見直しは課題として見えてきたことから、授業と合わせて家庭学習の更なる充実が求められます。そこで、下記の家庭学習改善方策を参考にし、全ての学校で取り組みます。

◆ 家庭学習改善方策 ◆

① 全教職員で家庭学習の手引きの確認をし、確実な取組をしましょう

・「津市版家庭学習マニュアル」を参考にし、各校の手引き等をもう一度見直し、学校全体の取組にしましょう。

ポイント

- ◆ 家庭での生活習慣を身につけることができるように
- ◆ 自分の課題や能力に合わせ、計画をし、自ら学んでいく力の育成を
- ◆ 家庭学習で身につく力(見える学力・見えない学力)を全教職員で再度確認を
- ◆ 家庭と学校が連携した取組を

② 家庭学習の課題の幅を広げましょう

・探究的な課題や思考力・表現力を育成する課題等、学習課題の質の向上をしましょう。

ポイント

- ◆ 「みんなの学習クラブタブレット」、「学—Viva!!セット」、「わかる・できる育成カリキュラム」等の活用
- ◆ 授業と連動した学習課題を

◆ 学力向上に向けた取組 PDCA サイクルチェックリスト ◆

□ 子どもたちがどこでつまづいているのか、学校全体で分析し、共有できているか

- ・学調やみえスタ等で正答率の低かった問題を校内研修で確認 ☞ どの学年のどの内容・どのような指導が必要か
- ・自校と県の設問別平均正答率を比較 ☞ 自校「強み」「弱み」を把握・自身の授業課題を知る

重要

該当学年や教科だけでなく、全教職員で共有できているか

□ 子どもたちが、「できる」ようになる取組を、学校全体で進めているか

- ・課題ある内容について授業改善を組織的・系統的に進める ☞ 「わかる・できる育成カリキュラム」等の活用
- ・みえスタディチェックの問題に再度取り組む ☞ 朝学・宿題等で課題問題を中心に・通信で保護者への協力
- ・授業スタイルや学習ルールを学校で統一 ☞ 「めあての提示」「自力解決」「学び合い」「振り返り」で授業のリズムを

重要

全教科・教育活動で教科横断的な取組をしているか

□ 子どもたちが「どれだけできるようになったか」を確認、検証しているか

- ・課題に対し繰り返し学習を行った後、習得できているのかチェック ☞ 過去の問題や「学—Viva!!セット」等を活用